

実務経験のある教員等による授業科目の一覧（救急救命学科）

科目名	実務経験	授業時数 (h)
シミュレーション実習Ⅰ	救急救命士として消防勤務経験	315
シミュレーション実習Ⅱ	救急救命士として消防勤務経験	585
シミュレーション実習Ⅲ	救急救命士として消防勤務経験	405
合計		1305

全ての成績評価は、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。

2020 年度救急救命学科入学生用

# SYLLABUS

# 目 次

基礎分野	科学的思考の基盤	1
	人間と人間生活	7
専門基礎分野	人体の構造と機能	17
	疾病の成り立ちと回復の過程	19
	健康と社会保障	23
専門分野	救急医学概論	25
	救急症候・病態生理学	29
	疾病救急医学	40
	外傷救急医学	50
	環境障害学・急性中毒学	56
	臨地実習	58

科目名	一般科学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材					
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	物質の状態	物質の状態変化	物質の三態を理解する。
2	物質の構造	原子と分子	原子の構造、周期表を理解する。
3	物質の構造	電子配置	電子配置、化学結合、化学反応式を理解する。
4	物質の化学変化	酸化と還元	酸化と還元、酸化剤と還元剤を理解する。
5	物質の状態	濃度	パーセント濃度、モル濃度を理解する。

科目名	危険物取扱法	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	らくらく突破 乙種第4類危険物取扱者合格テキスト				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

#### 授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	危険物に関する法令	危険物取扱者制度	消防法令に定められた危険物取扱者制度を理解する
2	危険物に関する法令	製造所等の設置基準	消防法令に定められた製造所等の設置基準を理解する。
3	危険物に関する法令	火災予防と保安に関する基準	消防法令に定められた火災予防と保安の基準を理解する。
4	基礎物理学	危険物に関わる基礎物理学	危険物に関連する基礎的な物理学について理解する。
5	危険物の性質並びにその火災方法及び消火の方法	危険物分類と第4類危険物の性質並びにその火災方法及び消火の方法	第1類から第6類危険物の概要と第4類危険物の各論について理解する。

科目名	毒物劇物管理学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	毒物劇物取扱者合格教本				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	法規		毒物劇物取締法を理解する。
2	法規		毒物劇物取締法を理解する。
3	基礎化学		毒物劇物取扱者試験に対応する基礎化学分野を理解する。
4	基礎化学		毒物劇物取扱者試験に対応する基礎化学分野を理解する。
5	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
6	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
7	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
8	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。

科目名	統計学概論	担当者	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間 15時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。			
教育内容	科学的思考の基盤			
教科書・教材	プリント			
評価法	試験による評価			
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。			

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	統計とは、統計学について	統計学について理解する。
2	各論	代表値・標準偏差	統計学各論に関して学ぶ。
3	各論	変動係数、母平均の推定	統計学各論に関して学ぶ。
4	各論	平均値の比較、百分率の比較	統計学各論に関して学ぶ。
5	各論	相関関係	統計学各論に関して学ぶ。

科目名	医用電子工学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	これから始める人の電気学入門講座(電波新聞社)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	医用電子機器、 電気の種類、 電気の作用	電気総論について理解する。
2	基礎	医用電子の基礎 電子回路の基礎	医用電子に関する基礎を理解する。
3	各論	計測診察機器 救急医療で使用する機器	医用機器に関して理解する。
4	各論	電気安全	医用機器使用上の注意点、電気安全について理解する。



科目名	基礎数学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	数学的スキルを身に付け、科学的思考の基盤を身に付ける。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	授業中に資料を配付する。				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	数字(正負の数) 四則計算	正負の和と差 正負の積と商 四則計算 式の計算	正負の四則計算が出来るようになる。
2	単位変換	長さ、重さ 割合、分数と小数	単位変化に関して理解する。
3	文字と式	速さ、時間 距離、割合野計算	設問から回答を導く事が出来るようになる。
4	方程式	方程式の解き方、連立方程 式、文章の問題、演習	連立方程式に関して理解する。

科目名	文章表現法	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	医療従事者としての必要な科学的思考及び教養を身に付ける。文章表現の基礎知識を習得し、考えや思いを相手に伝わるように出来る。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	文章とは、論文・作文とは	論文・作文の違いを理解する。
2	基礎	文章表現の基礎	文章表現の基礎を理解する。
3	各論	文章構成の基礎	文章構成の基礎を理解する。
4	各論・まとめ	演習	論文・作文を作製する事が出来る。

科目名	行動科学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	テキスト上巻 I 編第1章 3 生命倫理と医の倫理 1 生命倫理に関する原則 2. ヒポクラテスの誓い ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言 B 生命倫理の考え方と医療の実際 C 傷病者の権利を 守る立場から インフォームドコンセント QOL(Quality of life)リビングウィル 脳死と臓器移植法 救急救命士テキスト P16～23				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	倫理学導入	思考のポイント 生命倫理学導入	倫理学総論を理解する。
2	各論	人工妊娠中絶とその問題	倫理学各論を理解する。
3	各論	出生前診断とその問題	倫理学各論を理解する。
4	各論・まとめ	脳死、臓器移植とその問題 一般常識としての倫理学	脳死、臓器移植に関する問題を理解する。

科目名	倫理学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	テキスト不使用				
評価法	毎回のレポート課題、参加態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	倫理学総論 いのちについて考える①	倫理学総論を理解する。
2	各論	病気・障害について考える	病気と障害について理解する。
3	各論	患者さんの人権・意思決定 について考える	患者さんの人権・意思決定について理解する。
4	応用	総合学習	医療従事者を取り巻く倫理問題に関して調べ、発表する。

科目名	心理学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	プリント使用				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	心理学総論	「こころ」で見る世界 自己について コミュニケーションについて	心理学総論について理解する。
2	各論	自己理解	自己理解について理解する。
3	各論	自己表現	自己表現について理解する。
4	各論	ストレスマネジメント ストレスについて リラクゼーションについて	ストレスマネジメントについて理解する。
5	各論	カウンセリングから学ぶ「人との かかわり」 話の聞き方 エンカウンター・エクササイズ	カウンセリングについて理解する。

科目名	英語	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	プリント(English for Medical Students)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	体の名称	An Introduction to the Mind and Body	人体の名称の英語表記を理解する。
2	医学用語	General Medical Terminology	医学用語の英語表記を理解する。
3	英語で学ぶ解剖学	1 The Cardiovascular System 2 The Lymphatic System 3 The Respiratory System 4 The Digestive System 5 The Skeletal System	各臓器について英語表記を理解する。
4	まとめ	医学用語の英語表現について	医学用語の英語表現について理解する。

科目名	医療英語	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	協力機関:在日米陸軍基地管理本部緊急業務局総合消防本部				
評価法	レポート・実技試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	米国の医療体制について	英語圏医療体制について学ぶ。
2	各論	医療英語における表現	医療英語で使用する単語について学ぶ。
3	各論	Initial Assessment	英語を用いて、状況評価、傷病者観察を行い、傷病者やその関係者と円滑なコミュニケーションが取れるようになる。
4	各論	英会話をを用いた救急隊活動	英語を用いた救急隊活動を実践出来るようになる。

科目名	人間発達学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	1. 医療の対象である人間の発達に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化を理解する。 2. 発達に伴う各年代とのコミュニケーションを取るため特徴を理解する。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	授業中に資料を配付する。(参考図書:看護のための人間発達学第4版 船島なをみ著 医学書院)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	人間発達とは 発達、成長および老化	人間発達学総論を理解する。 成長と発達について理解する。
2	各論	胎児期～学童期	胎児期～学童期までの身体的変化、生理学的変化およびその特徴を理解する。
3	各論	思春期～老年期	思春期～老年期までの身体的変化、生理学的変化およびその特徴を理解する。
4	各論	発達・成長とコミュニケーション	発達・成長に伴うコミュニケーションの特徴を理解する。



科目名	一般教養 I	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	4 単位	授業時間	60 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	一般教養オリジナルテキスト				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	国語分野①	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
2	国語分野②	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
3	国語分野③	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
4	社会・倫理分野①	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
5	社会・倫理分野②	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
6	社会・倫理分野③	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
7	法令の基礎①	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
8	法令の基礎②	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
9	法令の基礎③	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
10～ 11	理数分野①	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。
12～ 13	理数分野②	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。
14～ 15	理数分野③	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。

科目名	一般教養Ⅱ	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	4単位	授業時間	60時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	一般教養オリジナルテキスト				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	実践国語	漢字の成り立ち	感じについて学ぶ。
2		四字熟語	四時軸後を学ぶ。
3		現代文と古文	現代文と古文について理解する。
4	実践社会科	地理	地理に関して学び理解する。
5		歴史	歴史に関して学び理解する。
6		倫理	倫理に関して学び理解する。
7		経済	経済に関して学び理解する。
8	実践法令	憲法	憲法に関して、学び理解する。
9		地方自治法	地方自治法を理解する。
10～ 11		主要な法令	法令に関して理解する。
12～ 13	実践理数	数学	数学の理解をする。
14～ 15		理科科目	理科科目の演習理解する。

科目名	体育	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	テキスト不使用				
評価法	出席状況、レポートなどによる総合評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	体力強化のコツと注意点	体力強化について理解する。
2	総論	スポーツテストについて	スポーツテストにおけるポイントと注意点を理解する。
3	各論	スポーツテスト（シャトルラン、立ち幅跳び、上体起こし）	正確に計測を行う。
4	各論	スポーツテスト（長座前屈、握力、反復横跳び、PUSH UP）	正確に計測を行う。
5	各論	球技競技	体力増強を行う。
6	各論	球技競技	体力増強を行う。
7	各論	基礎トレーニング法1	基礎トレーニング法を学び実践出来る。
8	各論	基礎トレーニング法	基礎トレーニング法を学び実践出来る。

科目名	解剖・生理学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	4単位	授業時間	60時間
教育目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	人体の構造と機能				
教科書・教材	上巻第Ⅱ編 1章 1.人体を構成する要素、2.体表から見る人体の構造、3.神経系、4.感覚系、5.呼吸系、6.循環系 7.消化系、8.泌尿系、9.生殖系、10.内分泌系、11.血液・免疫系、12.筋・骨格系、13.皮膚系				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	解剖学総論	人体の構造	解剖学に関する知識を理解する。
2	解剖学各論1	人体の構成とその役割	解剖学に関する知識を理解する。
3	解剖学各論2	神経・感覚器系	解剖学に関する知識を理解する。
4	解剖学各論3	呼吸・循環器系	解剖学に関する知識を理解する。
5	解剖学各論4	泌尿器・生殖器系	解剖学に関する知識を理解する。
6	解剖学各論5	消化器系	解剖学に関する知識を理解する。
7	解剖学各論6	内分泌・免疫系	解剖学に関する知識を理解する。
8	解剖学各論7	血液・体液	解剖学に関する知識を理解する。
9	解剖学各論8	薬剤投与に関する知識	解剖学に関する知識を理解する。
10～ 11	解剖学各論9	電解質・酸塩基平衡	解剖学に関する知識を理解する。
12～ 13	解剖学各論10	解剖学実習に関して	解剖学に関する知識を理解する。
14～ 15	解剖学各論11	解剖学実と倫理	解剖学に関する知識を理解する。

科目名	生化学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	人体の構造と機能				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト第9版 上巻Ⅱ 1.人体を構成する要素 14.生命の維持				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	生化学総論	生命、細胞、水	生化学総論を理解する。
2	各論・ アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の化学 タンパク質の消化と吸収と 代謝	アミノ酸とタンパクについて理解する。
3	各論・糖質	糖質の化学 糖質の消化と吸収と代謝 糖代謝の調節と糖尿病	糖質について理解する。
4	各論・脂質	脂質の化学 脂質の消化と吸収と代謝	脂質について理解する。
5	各論・核酸	核酸の化学 遺伝のしくみ	核酸について理解する。
6	各論・ミネラル	主な無機質と酸塩基平衡	ミネラルについて理解する。
7	各論・生理活性物質	アドレナリン等	生理活性物質について理解する。
8	応用	病態生化学	病態生化学について理解する。

科目名	病理学・法医学	担当者		実務経験のある教員科目
履修時期	1年後期	授業単位	2単位	授業時間 30時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。			
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程			
教科書・教材	上巻Ⅱ編 2章 1.疾患、2.炎症と感染、3.循環障害、4.代謝障害、5.退行性病変と進行性病変、6.腫瘍、7.先天異常、8.損傷、9.死			
評価法	試験による評価			
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。			

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	成長と発達、老化	
2	各論	疾病について	
3	各論	疾病の成り立ち 炎症と感染 循環障害	
4	各論	代謝障害	
5	各論	組織の退行性変化 組織の進行性変化	
6	各論	腫瘍について 先天異常 損傷	
7	各論	死と死亡の判定 死体現象	
8	各論	死亡原因	

科目名	感染と免疫	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	上巻Ⅱ編第2章3 炎症と感染、上巻Ⅲ編第1章10 感染対策				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	感染症総論	感染とその予防について 感染症の予防について	感染症の予防について理解する。
2	感染症各論	主な感染症	主な感染症について理解する。
3	〃	感染予防の原則	感染予防の基礎を理解する。
4	〃	職毒と滅菌 救急車の資器材の消毒	消毒と滅菌について理解する。
5	〃	感染性廃棄物の処理 搬送中の感染予防	感染性廃棄物の処理について理解する。
6	〃	疾病の成り立ち 炎症と感染	炎症と感染について理解する。
7	〃	実験・検証1 消毒剤の効果	手洗い実習に関して、実験方法に従い実験を行う。
8	〃	実験・検証2 消毒液の効果・常在菌	常在菌のついて、顕微鏡を用いて観察を行いその形態や特製について理解する。

科目名	薬理学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	上巻第Ⅱ編3章 1.医薬品の基礎、2.重要な医薬品				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	薬理学総論	薬理学に必要な解剖生理	薬理学総論について理解する。
2	薬物1	くすりとは 薬物の作用	薬物の作用について理解する。
3	薬物2	薬物 薬物の投与量	薬物の投与量について理解する。
4	薬物3	薬物の投与経路	薬物の投与量について理解する。
5	薬物4	医薬品とその性質 代表的な医薬品の例	医薬品について理解する。
6	薬剤投与の基礎1	薬物の作用 薬物の吸収・代謝・排泄	薬物の作用について理解する。
7	薬剤投与の基礎2	薬物の有害作用	薬物の有害作用について理解する。
8	薬剤投与の基礎3	薬事法と医薬品	薬事法について理解する。



科目名	検査診断(放射線学)	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	上巻第Ⅱ編3章 3.検査				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	検査総論	検査とは 検査の目的 検査の種類 緊急検査	検査総論について理解する。
2	放射線医学	放射線の種類と性質 被爆の形式	放射線の種類・性質を理解する。
3	〃	人体への影響	放射線の人体への影響について理解する。
4	〃	放射線防護 雄戦傷病者への対応	放射線防護について理解する。

科目名	公衆衛生学	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
教育内容	健康と社会保障				
教科書・教材	上巻 I 編 2 章 1 保健医療制度の仕組みと現状				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	公衆衛生について	公衆衛生総論について理解する。
2	各論	保健医療制度	公衆衛生各論について理解する。
3	”	感傷威衛生 労働衛生 学校保健 母子保健 老人保健	公衆衛生各論について理解する。
4	”	精神保健福祉 医療関係法規について	公衆衛生各論について理解する。

科目名	社会保障・社会福祉	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	15時間
教育目標	社会保障・社会福祉の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
教育内容	健康と社会保障				
教科書・教材	上巻第I編2章 2 社会保障と社会福祉を支える仕組み				
評価法	試験、レポート課題による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	社会保障・社会福祉の概念と行政	社会保障と社会福祉	社会保障・社会福祉について理解する。
2	社会保障給付と国民負担	社会保障の詳細	社会保障について理解する。
3	社会福祉の現状	社会福祉の現状	社会福祉の現状について理解する。
4	保険制度	介護保険制度 医療保険制度 年金制度	保険制度について理解する。

科目名	救急医学概論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論(救急災害医療、看護課異論、救急業務の背景)				
教科書・教材	上巻Ⅲ編1章 1.救急医療体制、2.災害医療体制、3.病院前医療体制、上巻Ⅲ編1章 6.救急救命士と傷病者との関係、上巻Ⅰ編1章 3.生命倫理と医の倫理、5.救急救命士の役割と責任、7.救急救命士に関連する法令、8.救急救命士の養成と生涯教育				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急医学総論	救急医療の現状 救急医療の特徴 医療における救急医療	救急医療の現状、特徴について理解する。
2	救急医療	救急医療体制 初期・二次・三次医療機関	救急医療体制について理解する。
3	〃	ドクターヘリ ドクターカー	ドクターヘリ、ドクターカーの運用について理解する。
4	〃	救急救命士制度 メディカルコントロール体制	救急救命士制度、MC体制について理解する。
5	災害医療	災害医療とは 災害の種類 災害の特徴	災害医療について理解する。
6	〃	トリアージ	トリアージについて理解する。
7	看護学概論	救急看護の役割	救急看護について理解する。
8	〃	傷病者への接遇	傷病者への接遇を学ぶ。
9	〃	看護の理念 救急医療における看護	看護の理念、救急看護における特徴を理解する。

科目名	患者搬送	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	上巻Ⅲ編第1章 4.消防機関における救急活動の流れ、6.救急救命士と傷病者の関係、9.安全管理と事故対応 11.ストレスに対するマネージメント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	患者搬送Ⅰ	救急活動の基本	救急活動について理解する。
2	〃	救急隊と救急車 状況評価、初期評価	状況評価、初期評価について理解する。
3	〃	救急隊のコミュニケーション 医療機関選定	病院選定について理解する。
4	〃	搬送における注意点 救急資器材とその消毒	救急資器材について理解する。
5	〃	活動記録について	活動記録にちいて理解する。
6	患者搬送Ⅱ	医療従事者とは 救急救命士とは	医療従事者としての救急救命士の位置付けを理解する。
7	〃	救急医療における 救急救命士の役割	救急救命士について理解する。
8	〃	傷病者接遇	傷病者、関係者接遇のポイントを理解する。
9	〃	ストレスマネージメント	ストレスマネージメントを理解する。

科目名	救急処置法	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論(救急処置)				
教科書・教材	上巻Ⅲ編第2章 7.救急救命士が行う処置、8.救急蘇生法、9.在宅療法継続中の傷病者の処置				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	処置の目的と意義	処置の目的と意義について理解する。
2	気道確保	用手的気道確保 エアウェイを用いた気道確保	気道確保について理解する。
3	吸引	吸引の目的、適応、方法と手順	吸引について理解する。
4	酸素投与	酸素投与の目的、適応、方法と手順	酸素投与について理解する。
5	人工呼吸	目的、適応、方法と手順	人工呼吸について理解する。
6	胸骨圧迫	目的、適応、方法と手順	胸骨圧迫について理解する。
7	除細動器	種類と構造 目的、適応、方法と手順	除細動について理解する。
8	静脈路確保と輸液	目的、適応、方法と手順	静脈路確保について理解する。
9	薬剤投与 (アドレナリン投与)	目的、適応、方法と手順	薬剤投与について理解する。
10	自己注射用 アドレナリン	目的、適応、方法と手順	アドレナリン自己注射について理解する。

11	ブドウ糖投与	目的、適応、方法と手順	ブドウ糖投与について理解する。
12	体位管理	目的、適応、方法と手順	体位管理について理解する。
13	体位管理	保温、冷却	体位管理について理解する。
14	止血	目的、適応、方法と手順	止血について理解する。
15	固定	目的、適応、方法と手順	固定について理解する。

科目名	救急医学特論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	上下巻該当ページ(1 生命倫理と医の倫理、2 救急医療体制、3 病院前救護体制、5 救急救命士の役割と責任、6 救急救命しに関する法規、7 災害医療、11 処置総論、12 処置各論、13 在宅療養者に対する処置、18 救急救命士と傷病者との関係)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	循環器疾患1	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
2	循環器疾患2	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
3	呼吸器疾患	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
4	呼吸器疾患	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
5	観察学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
6	産婦人科特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
7	消化器疾患特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
8	精神疾患特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
9	一般外傷特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	



	中毒学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
11	環境障害特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
12	頭部外傷特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
13	症例検討	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
14	病態学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
15	薬理学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
16	救急処置特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
17	解剖学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
18	災害救急特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	

科目名	観察と評価	担当者	実務経験のある教員科目		
履修時期	1年前期	授業単位	2単位	授業時間	90時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	上巻Ⅲ編第2章 1.観察、2.現場活動の基本、3.全身状態の観察、4.局所の観察、5.緊急度・重症度判断、6.資器材による観察				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	観察	目的と意義 バイタルサインとは 観察の方法	救急救命士の行う観察について理解する。
2	現場活動の基本	状況評価 初期評価 全身観察と重点観察	現場活動の基本について理解する。
3	〃	緊急度・重症度判断と 医療機関選定	重症度・緊急度について理解する。
4	〃	搬送と車内活動	搬送・救急車内活動について理解する。
5	全身観察	外見の検察、気道・循環・神経の観察	全身観察を理解する。
6	局所の観察	皮膚、頭部	局所の観察について理解する。
7	〃	胸部	局所の観察について理解する。
8	〃	腹部 鼠径部・会陰部	局所の観察について理解する。
9	〃	骨盤、四肢	局所の観察について理解する。
10	緊急度・重症度判定	緊急度と重症度	緊急度・重症度について理解する。 オーバートリアージ、アンダートリアージについて

11	〃	判断基準	傷病者の重症度緊急度の判断基準について理解する。
12	資器材による観察	パルスオキシメータ	パルスオキシメータについて理解する。
13	〃	カプノメータ、血圧計	カプノメータについて理解する。
14	〃	心電図モニター、体温計	心電図モニター、体温計について理解する。
15	〃	血糖測定器	血糖測定器について理解する。
16	観察の各論	状況評価	状況評価について理解する。
17	〃	初期評価	初期評価について理解する。
18	〃	全身観察	全身観察について理解する。
19	〃	詳細観察	詳細観察について理解する。
20	〃	継続観察	継続観察について理解する。
21	〃	局所の観察	局所の観察について理解する。
22	〃	災害時の観察	災害時の観察について理解する。
23	観察応用	小児の観察 高齢者の観察 妊婦の観察	観察の応用について理解する。

科目名	心肺停止 I	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第3章 5. 心肺停止				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	心肺停止とは 心肺停止の原因	心肺停止Ⅱ於ける総論を理解する。
2	各論	心肺停止の病態生理	心肺停止の病態生理について理解する。
3	〃	心肺停止の判断	心肺停止の判断について理解する。
4	心肺蘇生法	心肺蘇生法の歴史 最新の心肺蘇生法	心肺蘇生法総論について理解する。」
5	〃	心肺蘇生法の evidence	心肺蘇生法の科学的根拠を理解する。
6	〃	院外における心肺蘇生 のプロトコール	院外における心肺蘇生法を理解する。
7	〃	院内における心肺蘇生法 のプロトコール	院内における心肺蘇生法を理解する。
8	〃	救急救命士の行う 心肺蘇生法	救急救命士が行う心肺蘇生法について理解する。

科目名	心肺停止Ⅱ	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	上巻Ⅲ編第3章 5. 心肺停止				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	Prehospital Care の evidence	Prehospital Care の evidence を理解する。
2	〃	除細動に関する evidence	除細動に関する evidence を理解する。
3	〃	気道確保に関する evidence	気道確保に関する evidence を理解する。
4	〃	特定行為と メディカルコントロール1	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
5	〃	特定行為と メディカルコントロール2	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
6	〃	特定行為と メディカルコントロール3	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
7	〃	特定行為と メディカルコントロール4	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
8	〃	特定行為と メディカルコントロール5	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。

科目名	症候と病態 I	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編3章 3.ショック 4. 重症脳症 下巻Ⅲ編4章 1.意識障害 2.頭痛 3.痙攣 4. 運動麻痺 5.めまい 6.失神 7.咯血 12.吐血・下血				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	意識障害	定義、メカニズム、病態生理	意識障害について理解する。
2	意識障害	意識障害の評価	意識障害の評価について理解する。
3	意識障害	判断と搬送	意識障害の判断を理解する。
4	めまい	原因と病態生理、 観察のポイント	眩暈について理解する。
5	痙攣	原因と病態生理 観察のポイント	麻痺について理解する。
6	運動障害 感覚障害	原因と病態生理 観察のポイント	運動障害、感覚障害について理解する。
7	頭痛	原因と病態生理 観察のポイント	頭痛について理解する。
8	病態推論	ケーススタディ	病態推論について理解する。

科目名	症候と病態Ⅱ	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編4章 1.意識障害 2.頭痛 3.痙攣 4.運動麻痺 5.めまい 6.失神 7.喀血 12.吐血・下血				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	ショック	ショックの定義 ショックの分類と原因	ショックの定義について理解する。
2	〃	循環血液量減少性ショック 心原性ショック	循環血液量減少性ショックについて理解する。
3	〃	その他のショック ショックの症状	ショックの症状について理解する。
4	〃	ショックの病態生理	ショックの病態生理について理解する。
5	〃	ショックの症状と病態生理	ショックの症状について理解する。
6	出血	出血の病態・種類	出血の病態について理解する。
7	〃	出血の止血機序	止血の機序を理解する。
8	〃	止血法	出血時の止血法について理解する。

科目名	症候と病態Ⅲ	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第2章 7.救急救命士が行う処置(M:静脈路確保と輸液、N:アドレナリン投与、O:自己注射用アドレナリンの投与、P:ブドウ糖の投与)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	薬剤投与	薬剤投与の解剖生理	薬剤投与の解剖生理について理解する。
2	心肺停止	前後の病態生理	心肺停止の病態生理について理解する。
3	心停止と薬剤	心停止の病態 致死的不整脈	心停止の病態について理解する。
4	薬剤投与の基礎	投与経路と方法	投与経路と方法について理解する。
5	〃	薬剤投与の原則 心停止に用いる薬剤	薬剤投与の原則を理解する。
6	薬剤投与の実際	スタンダードプレコーションと 清潔操作	感染対策について理解する。
7	〃	薬剤投与プロトコール	薬剤投与プロトコールについて理解する。
8	〃	院内で行われる 二次救命処置	院内で行われる二次救命処置について理解する。



科目名	救急症候・病態学特論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	解剖学、薬理学、生化学、観察、心肺停止と薬剤、病態学にかかる部分				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	解剖学特論	骨格系、筋系	解剖について理解する。
2	〃	神経系、呼吸器系	解剖について理解する。
3	〃	消化器系、内分泌系	解剖について理解する。
4	薬理学特論	ACLSで用いる薬剤	ACLSで用いる薬剤について理解する。
5	〃	ACLSで用いる薬剤	ACLSで用いる薬剤について理解する。
6	生化学特論	エネルギー代謝	生化学分野について理解する。
7	〃	糖新生	生化学分野について理解する。
8	観察特論	現場活動における観察要領 1(虚血性心疾患)	現場活動における観察要領似について理解する。
9	〃	現場活動における観察要領 2(脳卒中)	現場活動における観察要領似について理解する。。
10	〃	現場活動における観察要領 3(環境障害)	現場活動における観察要領似について理解する。。
11	〃	現場活動における観察要領 4(消化器疾患)	現場活動における観察要領似について理解を深する。。
12	心肺停止と薬剤	ICLS総論	ICLSについて理解する。

13	〃	ICLS各論	ICLS似について理解する。
14	病態学特論	救急疾患の病態1 呼吸不全	救急疾患の病態について理解する。
15	〃	救急疾患の病態1 心不全・ショック	救急疾患の病態について理解する。
16	〃	救急疾患の病態1 重症脳障害	救急疾患の病態について理解する。

科目名	呼吸器系疾患	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第3章 1.呼吸不全、下巻Ⅲ編第5章 2.呼吸器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	呼吸器疾患総論	主要症候 基本対応	呼吸器疾患総論について理解する。
2	呼吸不全	定義 CO2ナルコーシス	呼吸不全について理解する。
3	上気道疾患	急性喉頭蓋炎	上気道疾患について理解する。
4	下気道と肺胞疾患	気管支喘息 COPD、気管支拡張症	下気道疾患について理解する。
5	感染症	肺炎、結核	呼吸器感染症に関して理解する。
6	胸膜疾患	気胸 緊張性気胸	気胸、緊張性気胸について理解する。
7	その他の疾患	肺血栓塞栓症 過換気症候群	呼吸器疾患について理解する。
8	その他の疾患	ARDS 間質性肺炎	呼吸器疾患について理解する。

科目名	循環器系疾患	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第3章 2.心不全 下巻Ⅲ編第4章 10.動悸 下巻Ⅲ編第5章 3.循環器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	循環器の解剖	構造と機能	循環器の解剖生理を理解する。
2	観察と判断	症状の特徴 心不全	循環器疾患の観察の POINT を理解する。
3	主な疾患	虚血性心疾患 急性冠症候群	循環器疾患を理解する。
4	〃	急性心筋梗塞	循環器疾患を理解する。
5	〃	心タンポナーデ 肺水腫	循環器疾患を理解する。
6	〃	急性大動脈解離 破裂大動脈瘤	循環器疾患を理解する。
7	〃	閉塞性動脈硬化症 閉塞性血栓血管炎 動脈閉塞症	循環器疾患を理解する。
8	動悸、不整脈	原因と病態生理 問診のポイント	動悸、不整脈について理解する。

科目名	消化器系疾患	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第4章 11.腹痛 下巻三卷第5章 4.消化器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	消化器の解剖	構造と機能	消化器の解剖生理について理解する。
2	観察と判断	消化器疾患の観察	消化管疾患の観察の point を理解する。
3	消化器疾患の症状	腹痛、吐血、嘔吐、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振、黄疸	消化器疾患の所見について理解する。
4	主な疾患	食道静脈瘤破裂 急性胃粘膜病変 胃十二指腸潰瘍	消化管疾患について理解する。
5	〃	マロリー・ワイス症候群 アニサキス症 消化管癌	消化管疾患について理解する。
6	〃	消化管穿孔 イレウス 上腸間膜動脈閉塞症	消化管疾患について理解する。
7	〃	虚血性腸炎、小管憩室症、急性虫垂炎、腹部ヘルニア	消化管疾患について理解する。
8	〃	急性肝炎、劇症肝炎、胆石症、急性膵炎、肝癌	消化管疾患について理解する。

科目名	泌尿器系疾患等	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 5.泌尿・生殖器系疾患 6.代謝・内分泌栄養系疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	泌尿生殖器	構造と機能	泌尿器生殖器の解剖生理について理解する。
2	〃	症状の特徴 主な症状	泌尿器の症状について理解する。
3	〃	腎不全の症状 尿路障害の症状	腎不全について理解する。
4	主な疾患	急性腎不全、尿路感染症、 尿路結石	泌尿器疾患について理解する。
5	〃	女性生殖器疾患 寛大生殖器疾患	泌尿器疾患について理解する。
6	代謝異常	電解質異常、脱水、栄養不 良、ビタミン欠乏症、痛風	代謝異常について理解する。
7	アレルギー	アナフィラキシー アレルギー性鼻炎 アトピー性皮膚炎	アレルギー疾患について理解する。
8	感染症	インフルエンザ、帯状疱疹、 食中毒、性感染症、MRSA、 マラリア、結核、SARS	感染症について理解する。

科目名	神経・内分泌系疾患等	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 1.神経系疾患 下巻Ⅲ編第5章 6.代謝内分泌・栄養系疾患 7.血液免疫系疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	神経系疾患	解剖と生理 観察の判断	神経系疾患の解剖生理を理解する。
2	神経系疾患 主な疾患	脳血管障害 慢性硬膜下血腫	神経系疾患について理解する。
3	〃	髄膜炎、脳腫瘍 ギランバレー症候群 周期性四肢麻痺 てんかん	神経系疾患について理解する。
4	〃	三叉神経痛 顔面神経麻痺 重症筋無力症 筋萎縮性側索硬化症 パーキンソン病、痴呆	神経系疾患について理解する。
5	内分泌疾患	解剖と生理 観察の判断	内分泌の解剖生理について理解する。
6	内分泌疾患 主な疾患	糖尿病 甲状腺機能障害	内分泌疾患について理解する。
7	〃	副腎機能障害 貧血、血友病、白血病	内分泌疾患について理解する。
8	〃	特発性血小板紫斑病 膠原病 播種性血管内凝固症候群	内分泌疾患について理解する。

科目名	高齢者疾患	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 13.高齢者に特有な疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	高齢者の特徴 加齢による変化	高齢者の特徴について理解する。
2	観察と判断	観察と判断	高齢者疾患の観察の point
3	高齢者に見られる主な疾患	老人性痴呆	高齢者疾患について理解する。
4	〃	急性心筋梗塞 狭心症	高齢者疾患について理解する。
5	〃	肺気腫	高齢者疾患について理解する。
6	〃	嚥下性肺炎 動脈性閉塞疾患	高齢者疾患について理解する。
7	〃	前立腺肥大症 骨粗鬆症	高齢者疾患について理解する。
8	〃	高齢者とのコミュニケーション	高齢者疾患について理解する。



科目名	産婦人科・小児科疾患	担当者		実務経験のある教員科目
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間 30時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。			
教育内容	疾病救急医学			
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 5.泌尿生殖系疾患 12.小児の特有な疾患 14.妊娠・分娩と救急疾患			
評価法	試験による評価			
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。			

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	小児・総論	小児の特徴 発達による救急疾患の変化	小児総論について理解する。
2	小児・各論	小児に見られる症状の特徴	小児に見られる症状の特徴を理解する。
3		主な疾患(熱性痙攣、髄膜炎、脳炎、クループ、気管支喘息、腸重積、川崎病、SIDS、被虐待児症候群)	小児疾患について理解する。
4	高齢者・総論	高齢者の特徴 高齢傷病者への対応	高齢者の特徴について理解する。 高齢者とのコミュニケーションを理解する。
5	高齢者・各論	主な実感(認知症、せん妄、誤嚥性肺炎、肺気腫、脱水)	高齢者疾患を理解する。
6		主な疾患(骨粗鬆症、前立腺肥大、廃用症候群)	高齢者疾患を理解する。
7	産婦人科	妊娠(正常、異常)	妊娠について理解する。
8		分娩(正常、異常) 観察と処置	分娩について理解する。

科目名	精神障害	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	精神疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 15.精神障害				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	精神障害総論	分類、疫学、主要症候	精神障害総論を理解する。
2	〃	精神疾患傷病者に対する基本的な対応	精神疾患傷病者への基本的な対応を理解する。
3	精神障害・各論	統合失調症	精神障害疾病について理解する。
4	〃	気分障害	精神障害疾病について理解する。
5	〃	器質性精神障害	精神障害疾病について理解する。
6	〃	中毒性障害	精神障害疾病について理解する。
7	〃	その他の精神障害	精神障害疾病について理解する。
8	〃	向精神薬の主な副作用	向精神薬の副作用について理解する。

科目名	疾病救急医学特論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	該当ページ				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	小児特論	新生児の心肺蘇生法	小児特性を理解した現場活動を理解する。
2	〃	小児の心肺蘇生法	小児特性を理解した現場活動を理解する。
3	〃	小児呼吸器疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
4	〃	小児循環器疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
5	〃	小児消化器系疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
6	〃	小児神経系疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
7	〃	小児の外傷	小児特性を理解した現場活動を理解する。
8	高齢者特論	高齢者の心肺蘇生法	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
9	〃	高齢者呼吸器疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
10	〃	高齢者循環器疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
11	〃	高齢者消化器系疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。

12	〃	高齢者の外傷	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
13	〃	高齢者代謝性疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
14	産婦人科特論	産婦人科の循環器疾患	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
15	〃	産婦人科の呼吸器疾患	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
16	〃	分娩対応・正常分娩	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
17	〃	分娩対応・異常分娩	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
18	〃	分娩・小児対応	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
19	〃	分娩後の対応	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。

科目名	一般外傷	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第6章 1.外傷総論、2.外傷の病態生理、3.外傷の現場活動、7.胸部外傷、8.腹部外傷、11.皮膚・軟部組織外傷、12.小児・妊婦・高齢者の外傷、17.刺咬症(傷)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	外傷総論	外傷の疫学	外傷総論に関して理解する。
2	〃	受傷機転とエネルギー 外傷の分類	外傷の受傷機転について理解する。
3	〃	主な受傷機転 スポーツ外傷	外傷の受傷機転に関して理解する。スポーツ外傷についてその特性を理解する。
4	外傷の病態生理	侵襲への反応 外傷に伴うショック	外傷の病態生理を理解する。
5	外傷の現場活動	状況評価	外傷の現場活動を理解する。
6	〃	傷病者評価	外傷の現場活動を理解する。
7	頭部外傷	特徴、疫学 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア	頭部外傷に関して理解する。
8	〃	主な外傷(脳挫傷、びまん性軸索損傷、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、外傷性くも膜下出血、外傷性脳内出血)	頭部外傷に関して理解する。
9	〃	現場活動・観察と評価 処置と重症度緊急度評価	頭部外傷に関して理解する。
10	胸部外傷	特徴・疫学	胸部外傷に関して理解する。

11	”	主な外傷	胸部外傷に関して理解する。
12	腹部外傷	特徴・疫学	腹部外傷に関して理解する。
13	”	主な外傷	腹部外傷に関して理解する。
14	骨盤外傷	特徴・疫学・処置	骨盤骨折に関して理解する。
15	四肢外傷	特徴・疫学・処置	四肢外傷に関して理解する。

科目名	頭部・頸椎・顔面外傷等	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第6章 4.頭部外傷、5.顔面・頸部外傷、6.脊椎・脊髄外傷 下巻Ⅲ編第5章 10.眼・耳・鼻の疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	頭部外傷	局所解剖 発生機序と病態 種類	頭部外傷について理解する。
2	〃	症状と観察 判断と処置	頭部外傷について理解する。
3	〃	搬送中の注意点 緊急開頭術となる頭部外傷	頭部外傷について理解する。
4	顔面、頸部外傷	局所解剖 発生機序と病態	顔面、頸部の外傷について理解する。
5	〃	症状と観察 判断と処置	顔面、頸部の外傷について理解する。
6	脊椎・脊髄外傷	局所解剖 発生機序と病態	脊椎・脊髄の外傷について理解する。
7	視覚器の主な疾患	緑内障、白内障、網膜剥離	感覚器の損傷について理解する。
8	平衡感覚器の主な疾患	中耳炎、メニエール病、めまい、耳下腺炎	本校感覚器の疾患について理解する。

科目名	熱傷・運動器損傷等	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	熱傷、運動器損傷等について受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できる。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 8.筋骨格系 9.骨盤外傷 10.四肢外傷 下巻Ⅲ編第6章 13.熱傷、14.化学損傷、15.電撃症・雷撃症、16.縊頸・絞頸				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	熱傷	局所解剖 熱傷の発生機序と病態	熱傷に関して理解する。
2	〃	搬送上の注意点	熱傷に関して理解する。
3	〃	症状・処置・搬送上の注意点	熱傷に関して理解する。
4	電撃症	電撃症の原因、所見、処置	電撃症について理解する。
5	化学損傷等	化学損傷・異物	化学損傷に関して理解する。
6	縊頸・絞頸	縊頸・絞頸	頸部損傷等に関して理解する。
7	運動器損傷	骨盤骨折、四肢外傷	運動器に関して理解する。
8	〃	応急処置、搬送上の注意点	運動器に関して理解する。



科目名	外傷救急医学特論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	2単位	授業時間	60時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻全般				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	交通外傷	頭部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
2	〃	胸部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
3	〃	腹部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
4	〃	骨盤四肢外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
5	〃	複数名の外傷	複数名の外傷について理解する。
6	〃	救出困難な外傷	救出困難事例について、その対応を理解する。
7	〃	多臓器損傷	多臓器損傷傷病者の観察と対応および医療機関選定について理解する。
8	労働災害	四肢骨盤外傷	労働災害についてその対応を理解する。
9	〃	頭部外傷	頭部外傷に関してその対応を理解する。
10	〃	胸部外傷	胸部外傷に関してその対応を理解する。
11	スポーツ外傷	四肢外傷	スポーツ外傷に関してその対応が出来るようになる。

12	”	脊椎脊髄外傷	脊椎脊髄損傷に対して適切な対応が出来るようになる。
13	多数傷病者事案	交通外傷	多数傷病者事案の対応を理解し、その対応が実践出来る。
14	小児の外傷	小児外傷	小児外傷の特性を理解し、その対応が適切に行える。
15	高齢者の外傷	高齢者の外傷	高齢者外傷の特性を理解し、その対応が適切に行える。
16	災害における外傷	多数傷病者	多数傷病者事案の特性を理解し、その対応が適切に行えるようになる。
17	災害における外傷	多数傷病者	災害における特性を理解し、その対応が適切に行えるようになる。

科目名	環境障害・中毒等	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	2年後期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	環境障害学、急性中毒学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第7章 1.中毒特論 2.中毒各論				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	環境障害	溺水	環境障害について理解する。
2	〃	熱中症、減圧症	環境障害について理解する。
3	〃	偶発性低体温、凍傷	環境障害について理解する。
4	〃	酸素欠乏症	環境障害について理解する。
5	中毒学総論	中毒とは、原因物質、病態生理	中毒学総論について理解する。
6	〃	観察と判断 中毒情報センター	中毒学総論について理解する。
7	中毒各論	医薬品中毒、農薬中毒、工業薬品中毒、ガス中毒	中毒学各論について理解する。
8	〃	アルコール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、覚醒剤中毒	中毒学各論について理解する。

科目名	環境障害・中毒学特論	担当者		実務経験のある教員科目	
履修時期	3年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	環境障害学、急性中毒学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第7章 1.中毒特論 2.中毒各論 4.溺水 5.熱中症 6.偶発性低体温症 8.その他の環境障害				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	環境障害	溺水	環境障害における現場活動について理解する。
2	〃	熱中症、減圧症	環境障害における現場活動について理解する。
3	〃	偶発性低体温、凍傷	環境障害における現場活動について理解する。
4	〃	酸素欠乏症	環境障害における現場活動について理解する。
5	中毒学総論	中毒とは、原因物質、病態生理	中毒学総論について理解する。
6	〃	観察と判断 中毒情報センター	中毒学総論について理解する。
7	中毒各論	医薬品中毒、農薬中毒、工業薬品中毒、ガス中毒	中毒学各論における現場活動について理解する。
8	〃	アルコール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、覚醒剤中毒	中毒学各論における現場活動について理解する。

科目名	シミュレーション実習 I		担当者	実務経験のある教員科目		○
履修時期	1 年前期	授業単位	7 単位	授業時間	315 時間	
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。					
教育内容	臨地実習					
教科書・教材	救急救命士標準テキスト(へるす出版) 救急技術マニュアル(東京法令出版) JPTEC ガイドブック					
評価法	出席、試験、レポート、実習態度等による総合評価					
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。					

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	オリエンテーション	実習室の使用に関して 資器材使用に関して	実習を行う上での注意事項を把握する。
2	規律訓練・体力錬成	規律訓練、ロープワーク、 体力錬成	訓練礼式を習得する。ロープワーク、結紮を習得する。
3	消防見学	消防署・救急自動車見学	消防について理解をする。
4	救急法講習	救急法(日本赤十字社)	救急員膝下宇取得を目指す。
5	教授法	心肺蘇生法普及指導法	心肺蘇生法の指導法を習得し実践出来るようになる。
6	搬送法体 位管理	徒手搬送、資器材搬送、 体位管理と保温	搬送体位管理について実践出来るようになる。
7	観察と接遇 CPR	観察方法、CPR 活動	観察要領を習得し実践出来る。救急隊として CPR 活動を出 来るようになる。
8	外傷	JPTEC に準じた現場活動 総合演習	救急隊として外傷活動を出来るようになる。

科目名	シミュレーション実習Ⅱ		担当者	実務経験のある教員科目		○
履修時期	2年前期	授業単位	13単位	授業時間	585時間	
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。					
教育内容	臨地実習					
教科書・教材	救急救命士標準テキスト、救急現場のピットフォール／内因性疾患(荘道社) 救急現場のピットフォール／外因性疾患(荘道社)、応急手当指導者標準テキスト(東京法令出版)					
評価法	出席、試験、レポート、実習態度等による総合評価					
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。					

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急救命士の 行う処置	器具を用いた気道確保 気管挿管	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得
2	〃	循環管理・呼吸管理 患者管理モニター	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得
3	〃	静脈路確保 薬剤投与シミュレーション	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得習得する
4	〃	救急救命士の行うCPR活動 血糖測定、ブドウ糖投与	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得する。
5	コミュニケーション スキル	救急手話 接遇対応	手話による現場活動、傷病者関係者接遇要領を習得する。
6	現場活動 プロトコール	内因性疾患対応(PEMEC、 PSLS、PCEC)	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。
7	〃	救急活動(外傷) 救急活動(内因性疾患)	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。
8	〃	総合シミュレーション	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。

科目名	シミュレーション実習Ⅲ		担当者		実務経験のある教員科目	○
履修時期	3年前期	授業単位	9単位	授業時間	405時間	
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。					
教育内容	臨地実習					
教科書・教材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、救命救急事例集50選/救急現場カルテ第Ⅱ集(荘道社) 病院前精神科救急 55 事例から学ぶ対応テキスト					
評価法	出席、試験、レポート、実習態度等による総合評価					
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。					

授業内容			
回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	現場活動 プロトコール	基本	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
2	〃	基本	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
3	〃	応用	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
4	〃	応用	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
5	現場対応	不搬送事案、搬送困難事案、	現場活動における困難事案に対する対応について習得する。
6	災害	先着隊対応、現場評価、 トリアージ、現場トリアージ、 救護所トリアージ	災害における先着隊活動、トリアージ(START 法、PAT 法)、 救護所の役割、搬送トリアージについて実践できるようになる。
7	災害	搬送トリアージ	災害における先着隊活動、トリアージ(START 法、PAT 法)、 救護所の役割、搬送トリアージについて実践できるようになる。
8	院内蘇生対応	ICLS	院内における急変対応についての的確に実施することが出来るようになる。また、医療機関における蘇生チームの一員として活躍できるようになる。